あゆみこどもえんだより

令和7年5月　社会福祉法人あゆみ会 あゆみこども園　大江町大字藤田字大花 402－4
HP アドレス　https://www.ayumi-kodomo.jp　TEL 0237(62)3220
Mail アドレス　mail@ayumi-kodomo.jp　FAX 0237(62)3260
園長　小関　義人

きれいな花が次々に咲き始め、若葉もきれいな季節となりました。新しいクラスでの生活にも少しずつ慣れてきて、子どもたちも好きな遊びを見つけたり、好きな先生と関わることで笑顔が増えてきたように思います。そのような姿を先日の保育参観で垣間見ることができたのではないでしょうか。これからの行事の中で、その時その瞬間に見せる子どもたちの姿がありますので、予定している行事等に参加していただき、子どもたちの成長を一緒に共有したいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

連休中は、大好きな保護者の皆さんと一緒に過ごすことができるので、どこかに出かけなくても、子どもたちも心が満たされることと思います。どこかに出かけることも楽しいですが、子どもたちに合わせて、無理のない計画をしましょう。

寒暖の差が大きいので、体調崩さないように食事や睡眠をしっかりとって健康に、そして楽しく過ごせるようにしましょう。重ね着をして衣服の調整などもお願いします。

花の日訪問について

お花の協力をお願いします。
(お庭に咲いている方)
※詳細は後日お知らせします。
いつもお世話になっているところへ、お花のプレゼントを届けに行く予定です。

保育参観へのご参加ありがとうございました！

先日はお忙しい中、保育参観・保護者会総会にご参加ありがとうございました。初めての参観ということで大好きな保護者の方のそばを離れられずにいたお友だちもいたようですが、子どもたち一人一人がとても素敵な笑顔を見せてくれました。

著『完　子どもへのまなざし』より一部抜粋　児童精神科医 佐々木正美　　～子どもが望んだように愛する～

社会的人格が発達する最初の一歩は、乳児期から幼児期の前半に人を信じることによって、子どものなかに基本的信頼が育っていきます。これを親の方からみれば、子どもが自分を好きになれるように育てるということですが、子どものほうからみれば、自分を望んだように愛されるということです。別の言い方をしますと、子どもが望んでいるような愛し方を、親がしてあげることです。

では、子どもが望んでいる愛し方をするために、親はどうしたらいいかといいうことですが、「お母さんが赤ちゃんと一緒にいることを幸福に感じることができたら、赤ちゃんもお母さんと一緒にいることが幸福なのです。」こんなにわかりやすい例はないですね。

赤ちゃんは、誕生してはじめて出会うお母さん（母親的な人もふくめたお母さん）を最初に信じます、あるいは信じようとします。

子どもが最初に出会い、最初に手厚く世話してくれる人を、どれくらい豊かに信じることができるかということは、じつは、どれくらい自分を信じて生きていくことができるかということと、ほとんど同義語なのです。お母さんをどれくらい信じることができるか、自分をどれくらい信じることができるかということは、やがて、友達をどれくらい信じることができるか、先生をどれくらい信じられるかということに、どんどんつながっていくのです。このことが、お母さんの役割のもっとも重要なところなのです。

子どもが望んだようにしていたら、過保護になってわがままになってしまうと思っていらっしゃる方もいるかもしれませんが、そんなことは絶対ありませんから、思い切り手をかけていただきたいと思います。赤ちゃんが生後五、六か月くらいになると、自分の喜ぶことを相手も喜んでくれること、つまり親からの共感を求めるようになってきます。

親が「いないいあないばあ」とか「おつむてんてん」を赤ちゃんにしてあげると、とても喜びますね。だから、親は赤ちゃんにそうしてあげますが、そのことは、親にとってもうれしいことなのです。このように喜びを共有し合うことが、子どものなかに共感的な感情を育てるために、もっとも重要な鍵になるということを、多くの乳幼児の心理学者や精神学者が指摘しています。

子どもは、そういう育児をしてくれる人に出会うことによって、相手と共感する感情を育てることができるのです。この共感性という感情が、相手に対する思いやりを育て、相手の喜びを自分の喜びにすることができるし、だんだん大きくなるにつれて、相手の悲しみ、苦しみを思いやることができる感情に発達していくわけです。